



八戸学院光星高の野球部に南部達者米を贈った
工藤祐直町長(右から3人目)ら

「おいしいお米、活力に」

南部町 光星高野球部に達者米100キ^ロ寄贈

南部・八戸

地域ブランド米「南部達者米」を今後の活力にしてもらおうと、南部町と南部達者米生産者部会(山道金太郎会長)は27日、今夏の甲子園に出場し、ベスト8の成績を収めた八戸学院光星高野球部に対し、達者米100キ^ロを寄贈した。

町が同校の系列校である八戸学院大、八戸学院短期大学部と連携包括協定を結んでいる縁で実施。2019年に続いて2度目の贈呈となった。達者米は農業と化学肥料を通常の5割以下で栽培。今年から品種は青森県産米新品種の「はれわ

たり」としている。

工藤祐直町長と山道会長、久保利樹副会長が同校を訪問。3人は、仲井宗基監督とプロ野球ドラフト会議でソフトバンクから育成4位で指名を受けた中澤恒貴選手、洗平比呂投手に達者米を手渡した。

工藤町長は「ベスト8というすごい結果を出しても良かった。春に向けておいしいお米を食べてほしい」と激励。部を代表し、中澤選手が「お米を食べて体をつくって、プロとして戦っていききたい。後輩たちも優勝に向かって頑張ってくれると思う」と感謝の言葉を述べた。(藤村大地)